

令和3年度 病害虫防除情報

令和3年12月9日
福島県病害虫防除所

イネばか苗病に対するプロクロラズ剤の防除効果の低下が確認されました。

- 1 対象作物：水稲
- 2 病害虫：イネばか苗病
- 3 対象地域：全域

発生経過

今年度、県内でプロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）による種子消毒を実施してもばか苗病が多発した事例があった。そのため、発生の目立った地点から分離したばか苗病菌の遺伝子診断（秋田県立大学に依頼）を行った結果、耐性菌であると判定された。

なお、接種試験においてこれらの菌株（耐性菌株A～C）に対する種子消毒薬剤の防除効果を確認したところ、対照薬剤（モミガードC・DF、テクリードCフロアブル）と比べ、スポルタック乳剤の発病苗割合が高く、防除効果が低下していることが確認された（図、写真）。

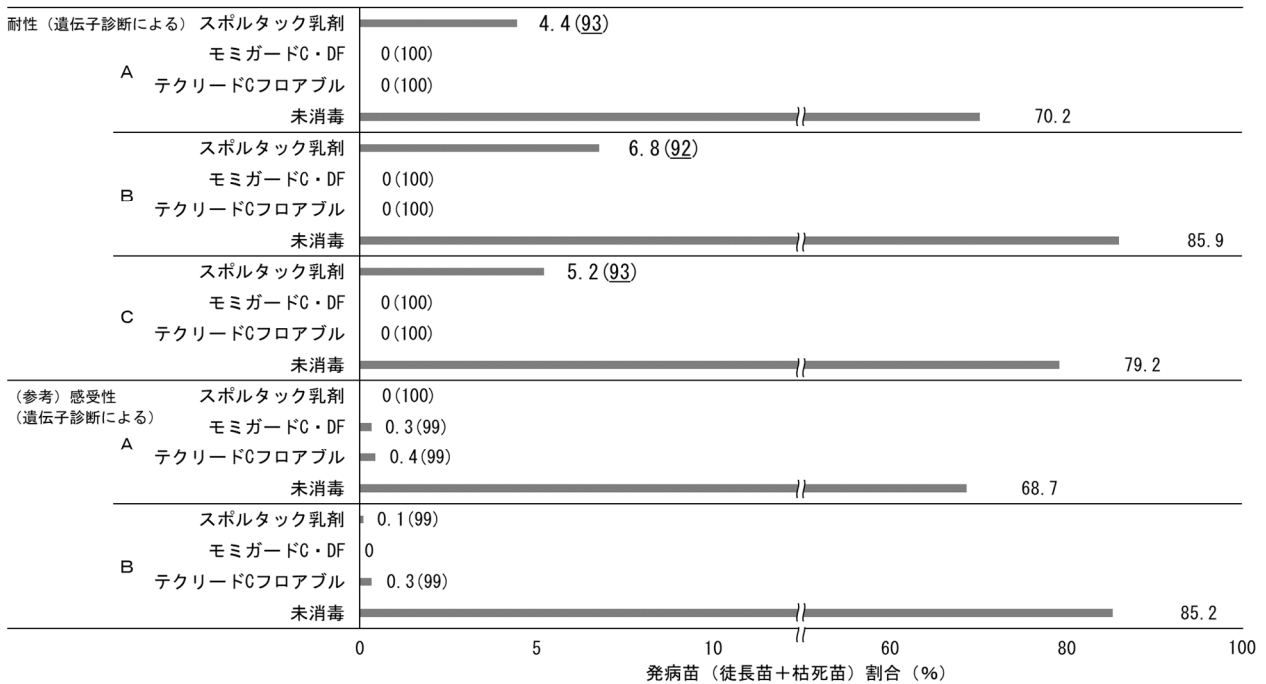


図 分離したばか苗病菌に対する種子消毒薬剤の防除効果（福島農総セ，2021）

注) 平成30年農業総合センター産「ひとめぼれ」種子に減圧接種法で実施。

注) 調査は種子300粒×3反復で実施。

発病苗割合 = (徒長苗数 + 枯死苗数) / 播種粒数 × 100 発病苗割合は3反復の平均値

注) () 内は防除価…各菌株の未消毒区の発病苗割合から算出（小数点以下は切り捨て）。

防除価が100に近いほど防除効果が高いことを示す。

新農薬委託試験では、イネばか苗病に対する防除価95未満で薬剤の効果が低いと判定される。

防除価 = (未消毒区発病苗割合 - 種子消毒区発病苗割合) / 未消毒区発病苗割合 × 100

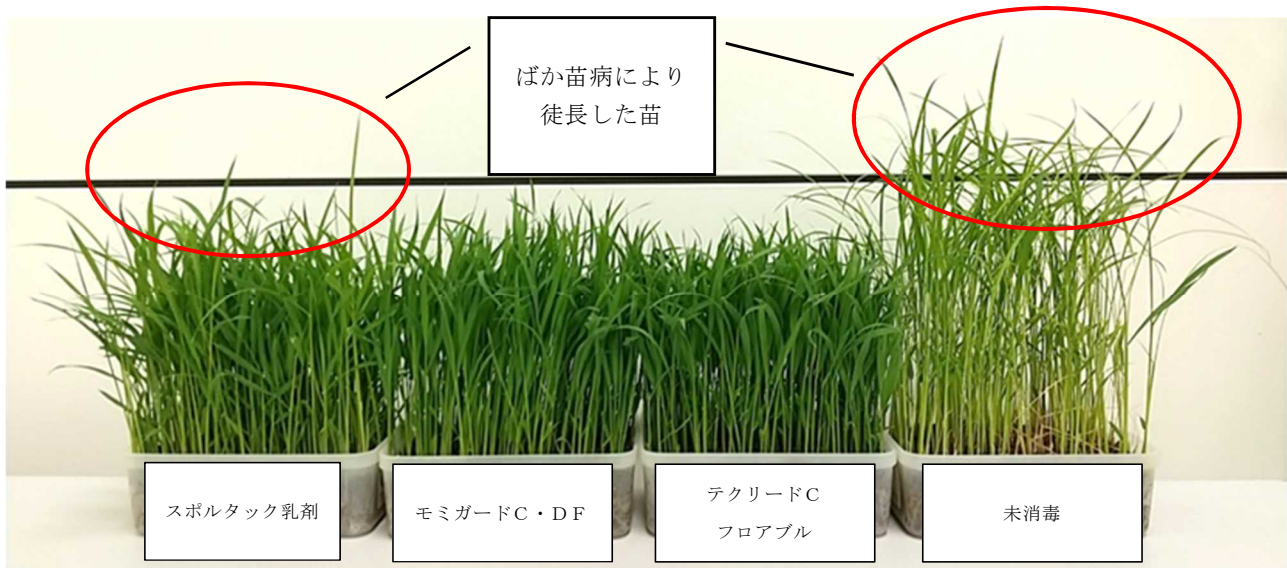


写真 耐性菌接種もみに対する種子消毒薬剤の効果（福島農総セ，2021）

防除対策

耐性菌のまん延による発生の増加が、本病による種子汚染につながるおそれがあるため、種子消毒薬剤には、ばか苗病の防除効果が高いモミガードC水和剤、モミガードC・DF、テクリードCフロアブルのいずれかの薬剤を使用する。

情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）まで御連絡ください（TEL 024-958-1709、FAX 024-958-1727）。

- 本情報は、福島県病虫害防除所ホームページ（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）でもご覧になれます。